

## 自己評価報告書

平成23年 4月15日現在

機関番号：35413

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2008～2011

課題番号：20760432

研究課題名（和文） 近代期朝鮮半島における名所型住宅地、別荘地の開発実態とその生活

研究課題名（英文） Residential developments and its life in modern Korea

## 研究代表者

砂本 文彦 (SUNAMOTO FUMIHIKO)

広島国際大学・工学部・准教授

研究者番号：70299379

研究分野：近代都市・建築史

科研費の分科・細目：建築史・意匠

キーワード：朝鮮半島、郊外住宅地、京城、ソウル、明水台、1930年代

## 1. 研究計画の概要

本研究は、これまで明らかにされてこなかった朝鮮半島における「植民地下の余暇性を伴う住空間の形成」を、名所型住宅地、別荘地の開発実態とその生活像から調査研究し、韓国と日本の近代建築史・都市史の新しい一面を示す。そして、その歴史的空間の未来への継承方法を検討するものである。

この研究目的を明らかにするために、国内外で文献調査を実施し、韓国での現地調査を行う。

## 2. 研究の進捗状況

これまで日本国内、韓国において現地調査ならびに文献調査を実施して来た。いくつかの研究上の重要な観点から研究の進展が見られたため、下記に記すような学術発表などを日本と韓国で行ってきている。

## 3. 現在までの達成度

おおよその概況把握は進捗し、個別事例についても1930年代の開発として最も典型例の研究が進展した。これらの研究成果を発表することにより、国内外における朝鮮半島の住宅地研究の学術状況に貢献したと考えている。

## 4. 今後の研究の推進方策

住宅地形成と名所形成の関係性をもう少し多様に把握したい。従来から指摘されてきた良好な生活環境への希求や、価格面などの住宅問題への解決策としての側面ばかりが郊外住宅地研究では指摘されてきたが、そうではなく、1930年代の植民地下の朝鮮半島においてこそ見出される住宅地開発現象としての展開を、文献調査と現地調査から押さえ

ていきたい。

## 5. 代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計1件）

①砂本文彦：경성부의 교외주택지에 관한 연구 명수대주택지를 둘러싼 언설과 공관을 중심으로（京城府の郊外住宅地に関する研究 明水台住宅地を巡る言説と空間を中心に）、서울학연구（ソウル学研究）、pp.147～246、2009年、査読有

〔学会発表〕（計1件）

①砂本文彦：京城府の郊外住宅地に関する研究 明水台住宅地を取り巻く言説と空間（韓国語）、ソウル市立大学ソウル学研究所定例発表会、2008年、査読なし

〔図書〕（計1件）

①砂本文彦：図説ソウルの歴史 — 漢城・京城・ソウル都市と建築の六〇〇年、河出書房新社、pp1～143、2009年